

## 2024年愛知県農業総合試験場の10大成果

農業総合試験場

愛知県農業総合試験場では、農業の発展や農家経営の改善のため、新しい品種や高度な栽培技術・飼養技術の開発を行っています。こうした試験研究について、広く県民の皆様にご理解を深めていただくため、農業総合試験場の研究成果の中から、特に優れたものや社会的関心の高いものを各界の選定委員に選んでいただき、2024年の10大成果として公表しましたので紹介します。

## 1 2024年の10大成果

第1位	在来種よりも収穫期が約1ヶ月早いエゴマ新品種を開発！ －新品種で中山間地域の活性化を目指します－
第2位	名古屋コーチンで初めてヒナの羽根で雌雄鑑別が可能に！ －名古屋コーチン卵用新系統（NGY6）の開発－
第3位	暑くても味、色づきイイネ！👍 加温ハウス向けウンシュウミカンの新品種を開発！ －新品種でハウスミカン産地の更なる発展を－
第4位	「試交17-22」で高品質なナスをいっぱい獲ろう！ －ナス新品種「試交17-22」の栽培技術を確立－
第5位	石灰窒素でスクミリンゴガイも肥料も減らそう！ －石灰窒素を併用した水稻の全量基肥施肥体系を開発－
第6位	イチジクの生産性を維持しながらコストを低減します －L型元肥を活用した新たな施肥体系を開発－
第7位	コショウランの萎れは原因の解明と対策の実施で解決！ －輸送時の萎凋対策を確立－
第8位	「シャインマスカット」の房作り作業軽減技術を開発 －早期GA処理でより作りやすく－
第9位	作物の生育状態が一目でわかる！ －生育予測技術を開発（AgriLook愛知県版）－
第10位	フルメット液剤と果梗捻枝の組み合わせで収益UP！ －トマトの裂果対策技術の開発－

## 2 選定委員

あさかわ 浅川 晋	名古屋大学大学院生命農学研究科 教授
いとう 伊藤 博康	株式会社CBCテレビ報道・情報制作局 専任部長
いのうえ 井上 孝司	ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社 基盤技術研究所 副所長
よしだ 吉田 典子	愛知消費者協会 会長（以上、敬称略・五十音順）
ばん 伴 充晃	愛知県農業総合試験場 場長

### 3 特徴・傾向

研究成果の中から選定委員が、「実用性」、「新規性」、「社会性」、「普及性」の4項目について5段階で評価して10課題を選定しました。2024年の10大成果として選出された課題は、IT関連1・育種3・栽培管理3・環境配慮肥料管理2・輸送対策1と多岐にわたっており、いずれの成果も今日的な問題解決に資するものです。

今回は1位から3位までを独占した育種の成果を以下に紹介します。

第1位：エゴマの新品種「No.7」を開発しました。本品種は、本県で栽培されているエゴマの在来種「名倉(なぐら)」より収穫時期が早く、早霜の被害を回避できる他、収穫時期の分散により経営面積の拡大が可能となります。また、「名倉」よりも草丈が低く、茎が細いため、収穫しやすいことが特徴です。

第2位：名古屋コーチン卵用新系統(NGY6)を開発しました。新系統は、ヒナの羽根の形が遅羽性(羽根の伸長が遅い個体)であり、速羽性の系統との交配により、ヒナの雌雄を羽根の形状の違いから容易に鑑別できます。また、卵用として卵の見た目(卵殻色の改善、卵殻表面の「白斑点」出現確率向上)と産卵性も改善しました。

第3位：加温ハウス向けウンシュウミカンの新品種「C系統」をJA蒲郡市との共同研究で開発しました。「C系統」は既存品種の「宮川早生」より10日ほど着色が早く果皮色が良好です。また、糖度、酸含量ともに「宮川早生」よりやや高く、食味の良い品種です。「C系統」の導入により生産者の収益の向上が期待されます。

### 4 公表

農業総合試験場のWebページ(<https://www.pref.aichi.jp/nososi/>)で、10大成果の詳細がご覧いただけます。

#### 第1位

在来種よりも収穫期が約1ヶ月早い  
エゴマ新品種を開発！

—新品種で中山間地域の  
活性化を目指します—



#### 第3位

暑くても味、色づきイイネ！  
加温ハウス向けウンシュウ  
ミカンの新品種を開発！

—新品種でハウスミカン産地の  
更なる発展を—



#### 第2位

名古屋コーチンで初めて  
ヒナの羽根で雌雄鑑別が  
可能に！

—名古屋コーチン卵用新系統  
(NGY6)の開発—

